

陽の里

発行 平成14年11月30日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター

サンビレッジ

No.80

2002年 **テーマ** 大規模改修で暮らしと介護力の向上



「なかのさんち」での生活

すずらん棟リーダー 植村 純子

ホームで小さな民家を借りました。入居者の皆さんが日中そこで過ごされます。

ある日炊きこみご飯を作りました。お二人の利用者が台所に立つてお互いに相談しながら米をとき、具になる野菜を切っておられます。料理が得意でない方もテレビを見たりお喋りをしたりとそれぞれの時間を楽しんで時間が過ぎ、ご飯の炊けるいい匂いがする頃には苑から届いたおかずの盛り付けです。皆さんで「多い、少ない」と相談しながら準備が整うと、職員も同じ食卓に付きます。時間を気にせずゆつくりと食事を楽しんだ後は後片付けですが、進んで食器を洗ってくださる方、それを気遣ってお手伝いをする方、利用者同士で声を掛け合いながら家事を進めていかれる様子は何もかもが準備されている棟の中では見られないことです。

午後は畳の上に寝転がってお昼寝をしたりおやつを作ったりと利用者のペースで穏やかに時間が過ぎ、そんな中で利用者ご自身も忘れてしまっていたことが記憶の中によみがえってこられたりと、話がはずむこともしばしばです。

「なかのさんち」では利用者の生活意欲があふれています。

より豊かに暮らすために

―建物を生活力の味方に―

総合ケアセンターサンビレッジ施設長 太田 澄子

ある日、ひまわりホールで過ごす利用者数人に「幸せに暮らしておられますか？」と聞きましたところ「まあ、こんなところでしょう」などと、不満ではないが、さりとて満足でもない返事が返ってきました。



▲ロビー

入所前とは随分元気になられたのに：何故だろう。人はどんなとき幸せを感じるのだろうか、と私は自問自答していました。きっとそれはとても大きなことではなく、例えば朝起きて、掃除をして、友達と喫茶店でコーヒーを飲みながら：などと、小さくても一日を自分で決めることではないかと思いました。

自己決定だ。我々介護者は利用者の望みを前にノーマルと言わず、専門性を活かしてなるべく多くの選択肢を用意し選んでもらおう。それがその人の人生になるわけだから。

今まで特別養護老人ホームは「終いの棲家」といわれ、

最後まで暮らせる安心できる施設と思われていました。しかし利用者から言えば、それは家族と家と地域社会から離された場所であり、帰る可能性を見出せない辛い呼び方だったのです。

そこでホームは町内に在る高齢者アパートと考え、状態が良くなれば家庭復帰すれば良い。気に入らなければ契約を解除してもいいのです。

そしてここで暮らす利用者の為に、ニーズに応える居場所がホーム内のあちらこちらに必要であると考えました。

三年がかりの大規模改修工事となりました。男女別々の脱衣室と庭が見える大浴場、池田山を一望する団欒室、桜の木を前にするショートステイルーム、家庭的な生活が可能になる痴呆棟のユニットシステム、避難階段設置、洗濯室に隣接したりネン室。



▲ラウンジ玄関

勿論ホーム内だけで完結はしません。時には町内の公園、体育館、図書館等の施設を活用し、より生活が愉しくなれば良いなと考えています。

ホームには一人一人の暮らしがあります。図書館へ行く人、料理をする人、毬を作る人、犬と興ずる人、土に種をまく人、買い物に行く人等過ごし方は十人十色です。目指すは人生の継続が可能な地域の中に在るホームです。

新しくなるすずらん棟ユニットケアについて

生活を楽しむケアへ
より潤いのある生活の実現を目指して

すずらん棟チーフ 田中 広美

2002年9月、すずらん棟ユニット改修工事がいよいよスタートした。

ユニットケアとは、集団をいくつかのグループに分けて施設の中においてもグループホームのような家庭的な雰囲気与生活を共にすることを目指すケアである。

現在すずらん棟には、痴呆という障害を持つ30名弱の利用者が生活しておられる。その痴呆のレベルや生活歴は様々であり、30名弱を一集団とするケアではそれぞれのニーズに合わせた柔軟な対応が図りにくい。身体状況、痴呆レベル、生活背景を踏まえたグループピン

踏まえた援助が可能になる。

今回の改修により新しく増設されるユニットスペースを含め、棟内に3つのユニットスペースが確保される。それぞれにキッチンを備え、そこに置く家具、写真、絵も含めてそこで生活する利用者の方に合わせた空間が演出できる。

それぞれのユニットでは、「暮らしを共にする」「生活を楽しむ」をキーワードに利用者の方が主体となる生活を創っていききたい。具体的には、会話を楽しみ、お茶の時間を楽しむ(テーブルの上は急須とお茶の葉とポットがあり、ごく自然にお茶を入れ合い、暮らしから生まれ

る話題、季節の話題、思い出話を楽しむ)。食事を一緒に楽しむ(ご飯を炊き、出来上がった料理を盛り付け、各キッチンから食欲をそそる食事の香りが漂ってくる)。

家族の方も自然にユニットに足を運び、同じ時間を過ごし共有することが出来る。音楽会のような家族、ボランティアも交えた行事、運動

会、文化展、ドライブ、シヨッピングのような地域に出掛ける行事も継続し、家族、地域の中でのその方の生活を支えていきたい。

ユニットケアに決った形やマニュアルはないと思っている。いかに「個」を理解し援助を進め、それぞれの暮らしやすさ、居心地の良さを探していくかではないだろうか。

私達介護者が見つめていくのは、そこで生活する利用者一人一人の輝く笑顔であると信じている。

すずらん棟ユニットケアは、これからも利用者の思いに寄り添いながら共に創っていく日々の暮らしそのものでありたい。



▲ラウンジ

新しくなったお風呂

近藤はすゑさん (デイサービス)

以前のお風呂は脱衣所が狭くて、隣の人との間隔があまりなかったね。今の脱衣所は広くて、自分の荷物もきちんと置いておけるし、安心して湯ぶねにつかっているわ。湯ぶねの中では外の景色を見ながら、ゆったりと入ることができて気持ちがいいです。

西川さみさん (デイサービス)

前のお風呂は狭くて暗い感じがしとったね。でも、新しいお風呂になってから外の景色が見えて気持ちいいわ。花が咲く季節になるとの楽しみやね。

松野正人さん (デイサービス)

今までは待ち時間が長かったけど、今はデイに来て熱と血圧測るのが終わればすぐに風呂に入れるようになった。男風呂と女風呂の入口がわかれているところも良い。前は暗い雰囲気でしたが、新しくなって明るくなった。広くなった分職員の人らが大変になったやろうし、よう頑張るとるなと思います。

利用者の声

桜井 緑さん (デイサービス)

以前は着替える所が狭かったね。今の脱衣所は広くて着替えをするのが楽になりました。とても感じが良いです。いつもさっぱり気持ちよく入らせて頂いていますよ。ありがとうございます。



斉藤つなゑさん (チューリップ)

新しく立派なお風呂で、入浴の日が来るのを楽しみに待っています。広いし、車椅子で入ってもものびのびと支度もでき、中はとても綺麗で便利にできていて浴槽も広く大きくタイルが水色でとても素敵です。温泉にでも行った気分でのんびりお湯につかり、外の眺めもまた格別です。皆さんも喜んでおられるでしょう。古いほうのお風呂は一寸と狭いので混雑して大変だったと思いました。

石田 栄さん (チューリップ)

古いお風呂は狭かったけど、新しいお風呂は明るくていいね。温泉のように広いし、気持ちよくゆったりと入っています。



浴槽



広くなった脱衣所



団楽室



作業室



ショートステイルーム